

## 【プログラムの内容】

- ▶東日本大震災時に体験した3日間の停電から、「灯」が消えることの不安を身をもって経験しました。それと同時に福島県民として原発事故の恐ろしさも体験しました。
- ▶その体験を基にスタートした「再生可能エネルギー施設（バイナリー発電所）」は、電気を発電するだけではなく、発電時に出る冷却水を利用し「エビ」の養殖に活用するなど、地域おこしの起爆剤として活用されています。売電収益を活かしたまちづくりの成果などを自由散策で体験することもおすすめです。

## 【SDGs「17の目標（ゴール）と169のターゲット】

- ▶ゴール7：国立公園内で再生可能エネルギーという未来に向けたエネルギー事業。
- ▶ゴール9（ターゲット9.1, 9.4）：発電により得た収入を高齢者や学生の定期代を無償化する福利厚生に利用したり、発電時に出る冷却水を再利用し養殖事業を展開。
- ▶ゴール13：東日本大震災での教訓を活かした自然災害でも「停電しない町」。



「停電しない」土湯温泉全貌



バイナリー発電所の見学



発電時の冷却水を利用したエビの養殖講話



散策にもおすすめ

## 事前学習

- ▶発電にはどのような種類があるか？を調べる。
- ▶再生可能エネルギーとはどんなエネルギーかを調べる。
- ▶日本の地熱/温泉熱資源について調べる。
- ▶土湯温泉の取り組みについて調べてみる。

## 【施設で対応できること】

- ▶オンラインで授業へ参加し、発電について説明する。
- ▶土湯温泉のパンフレット送付

## 現地学習

- ▶土湯温泉の共同源泉地域内のバイナリー発電所を見学  
温泉の仕組みを学ぶことができるとともに、地域内を流れる川は「14年連続水質が最も良好な河川日本一の荒川」であり、約60万年前の地層があったりなど国立公園の自然の豊かさを実感できる。（実際の発電機のそばで大きさ、音、を感じてもらう）
- ▶エビの養殖を始めたきっかけと展望について講話  
※荒天時は、発電所の見学は中止とし、会議室等での座学対応（要相談）

## 事後学習

- ▶どうして再生可能エネルギーの普及が進まないのかを考えてみる。
- ▶自分たちの町では災害への備えとしてどういった対策がとられているか調べてみる。
- ▶自分たちの町の再生可能エネルギー源を探してみる。

## 【施設で対応できること】

- ▶オンラインで授業に参加し、生徒の発表を聞く。

受入人数	15人程度 (マイクロバス利用が条件)
受入可能時期（休業日）	4月～11月
受入可能時間	9時～16時
体験時間	1時間～1時間30分

対象	小学生、中学生、高校生
1人/1回 当たり料金	1,320円
備考 (雨天対応等)	・温泉たまご作りも可（1人当たり別途100円） ・土湯温泉街から地熱発電所まで大型バスでの進入不可。マイクロバス程度なら進入可能。

## ▶問い合わせ

企業/施設名称：土湯温泉観光協会  
担当名：加藤 舞  
TEL：024-595-2217  
営業時間：8時30分～17時30分  
休館日：なし

